

## 認知症の専門医にここが聞きたい！ ～ 第3弾 医師との顔の見える研修会 ～

平成30年10月20日の公開研修会は、「認知症の専門医にここが聞きたい！～第3弾 医師との顔の見える研修会～」と題して、秋津鴻池病院 認知症サポート医である平井院長と洪医師を講師に開催させていただきました。当日は地域住民の方や民生委員、行政、介護サービス事業所、病院関係者など総勢102名の方にご参加頂きました。



今回も、より医師を身近に感じてもらえるよう、講義形式ではなく皆さんからいただいた質問に先生がお答えするインタビュー形式で進めさせていただきました。

事前アンケートでは様々なご質問を頂きましたが、先ず「外来診療と入院診療の違いや注意点について」お聞きしました。洪先生からは、「入院では身体的治療も可能であること、外来では治療だけでなく、介護保険利用の案内や、生活上の問題への助言も行っている」という説明があり、加えて平井先生からは、「最近では運転免許の継続についての相談も多く、ご家族と一緒に本人に運転をやめるよう説得することもあるが、運転ができなくなることで生活が不便になることを考えると悩ましい問題だ」とのお話がありました。

その他「認知症治療薬について」「ご家族への支援について」「受診のタイミングについて」「入院後在宅復帰の際に気を付ける点について」などの質問がありました。

先生方からは、退院してもいつでも病院に相談できること、認知症の診断は医師が行うが、認知症の方がよりよく生活していくためには、専門職の協力が欠かせないこと、専門職が関わることで（不思議と）落ち着かれることなどのお話があり、加えて平井院長からの「精神科のイメージが変わって『人間ドッグ』のように『認知症ドッグ』という形で気軽に入院や検査ができるようになれば、世の中変わるのでは・・・」という言葉に、認知症治療をもっと身近に感じてほしいという先生方の気持ちが伝わり、参加者の皆さんも大きく頷いておられました。

また、「認知症の方への対応について」の質問では、訪問リハビリの作業療法士から、「認知症介護によるバーンアウトについて」の質問では、認知症認定看護師から、「認知症予防について」の質問では、鴻池荘の理学療法士から、「初めて受診される方、物忘れ外来の予約等について」は、認知症疾患センターの相談員から、それぞれ説明とアドバイスを頂きました。

研修が進むにつれて、会場は和やかな雰囲気になり、冗談を交えたり、先生方からも台本にない！？突然の逆質問もあり、90分という時間が短く感じられるほどでした。

まだまだ精神科受診は本人・家族・世の中の意識的に敷居が高い現状もありますが、認知症の方に关わるケアマネジャーの立場からは、困ったときは医師に相談してもいいんだと専門医を身近に感じていただくことができた研修だったのではないのでしょうか。

